

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500316		
法人名	(株)イズミ		
事業所名	グループホーム笑顔の泉(Aユニット)		
所在地	愛知県春日井市下条町2丁目1-9		
自己評価作成日	令和2年8月8日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;ji_gyosyoCd=2392500316-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;ji_gyosyoCd=2392500316-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事…行事食をメインとした季節ごとの施設内行事を提供しています。  
 食事…毎日三食手作りで提供しています。  
 職員…人員を多めに配置することで手厚いケアを提供しています。  
 利用者様もスタッフも毎日笑顔で楽しく生活出来るような管理運営を心掛けています。  
 また、利用者様の生活の質やADL低下予防のため外出レクや毎日の散歩に力をいれておりますが、現在コロナウイルスの影響により一時期にそれらは制限しております。  
 代替策として室内散歩と室内レクを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「日々、体を動かしていくことが大事」との共通命題を持つ職員が毎日生活チェック表をつけ、達成のための情報整理と共有を欠かしません。命題の一環には家庭菜園があり、キュウリは347本も収穫、植えつけや水やりを楽しめたうえに、食卓にも並んで大成功を収めています。また利用者の中には「一日何本採れたか」記録をとり、収支決算まで管理者に報告して下さる人もいて、今後の植栽計画をメモする姿に職員も他の利用者も微笑ましく見守っています。また介護支援専門員2名が計画作成担当者との潤沢な配置に恵まれ、独自の書面作成を以て「家族にも分かり易い介護計画書づくり」が励行されていることも取組みを支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に3か所掲示しており、新人職員にも事業所理念を伝達しています。 理念に基づいた教育を行っています。	理念は事務所の3箇所に掲示して、誰の目にも入るよう配しています。事業所名にも通ずる「明るく楽しく笑って生活できる環境」がつけられていることはモニタリング表の詳細さに担保され、来訪者に利用者が知り合いかのように話しかけてくることが裏付けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で制限しています。	区費を納めており、区長からは随時地域情報をもたらしていますが、コロナ禍でハンドマッサージのボランティア訪問や地域行事など、ことごとく中止となっています。それでも散歩に出れば野菜をもらうこともあり、わずかな時間でも温かな交流をもっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の困っている人を受け入れられるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で現在は書面でのやり取りとしています。	春日井市にはコロナ禍における運営推進会議について問い合わせ、結果書面開催に至っています。管理者とリーダー2名で話し合った結果を議事録にまとめ、地域包括支援センターに提出する形をとり、今後落ち着くまではこの方式を進める予定です。	管理者には「早く元通りとなり皆さんの貴重な意見をもらいたい」との思いがあることもあり、まずは資料としてメンバーに郵送、意見を返信してもらった後に議事録としてまとめると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの対策について相談させていただいています。	地域包括支援センターが民生委員へ声かけしていただき、運営推進会議のメンバーとなってくださる可能性が見えてきています。一方、事業所でもコロナ禍を契機に高齢福祉課にお願いして、特報や状況などについてメール配信があるようになり、連携を強めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市町村の指導もあり、玄関の施錠を行っています。2か月に一回身体拘束適正化委員会を開催しております。 施錠以外の身体拘束は現状有りません。	身体拘束未実施減算に係る会議運営や研修会に取組み、書面も1冊のファイルに収め管理できています。スピーチロックなど気になる事があった場合は、個人に注意しないで、研修会の題材として取り上げ、客観的に振り返って内省を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のリーダー会議で虐待に繋がりがかねない行為やニュースをピックアップし具体例を出しどのようにすればよかったかなどを書面として作成、配布しています。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であればいつでも支援できるよう学んだり話し合ったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に懇切丁寧に説明しております。また、常日頃から不明な点は聞いていただけるような態度を心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、対応しております。本部へも届出、書面に残し改善をします。	請求書送付時に管理者が一言コメントを入れましたが、3月からは面会に代わるものとしてコメントと一緒に写真を同封しています。また5月からはLINE電話で顔を見て話せるように手配しており、現在複数の家族が利用しています。	これまでコミュニケーションの軸であった面会の形態が変わり、機能が薄くなっていることから、書面送付の内容を更に充実させる(1ヶ月の心身の様子等)ことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から個別の面談を行っております。職員の本音が聞き出せるような対応を心掛けております。	職員はLINEでつながり、瞬時に意見のやりとりが叶っています。「そうだったのか感染対策」という動画を管理者が送ったところ、予想以上に職員の視聴、反響があり、「これからも何か良い情報が有れば送ろう」と、管理者のモチベーションもあがっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの状態、ニーズを把握し向上心を持って働ける職場作りに励んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画による研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で制限しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは、先方への配慮で現在管理者一人で赴きます。入居当日に本人様、ご家族、管理者、ケアマネで話し合います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様が安心して暮らせるよう、本人様及びご家族のご意向を第一に個々のケアを行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様の状況がグループホーム入居に向いているかどうか判断し、正直にお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長らく利用して下さっている利用者様や長く続けてくれている職員が多く、信頼関係が構築されていると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や負担を軽減できるよう、可能な限りご要望を叶えられるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で現在面会は制限しております。代替策としてライン面会や写真の送付を実施しております。	編み物、絵手紙やちぎり絵、習字などを趣味活動の一環としておこなうとともに、週刊誌を定期購読する人もいます。以前は一緒に買いに出ましたが、感染症対策として今は職員が代行しており、馴染みの美容院通いも事業所への訪問美容に切り替えていて、諸所我慢の時です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を席の配置に反映し、共に助け合えるような環境づくりに努めています。常日頃から利用者様同士の関係が良好となるようお声がけを行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから関係を断ち切ろうとはしません。退去されたご家族様の相談を受けることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議で本人様及び家族様の意向の聞き取りを行っています。また、日常の関わりからもご本人様の意向の把握に努めております。認知症等により困難な場合には家族様にお話を伺い、本人本位の視点に立てよう努めています。	職員は生活チェック表や申し送りノートで利用者の想いを共有しており、居室担当を決めずに全職員で利用者一人ひとりを把握しようと日々のケアにあたっています。特に「毎日身体を動かすこと」を大切に、本人の意欲を引き出そうと声かけをおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に今までの暮らしぶりの聞き取りを行っています。また、日常会話の中でも差し障りない範囲で聞き取りを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに基づく生活チェック表を使用し、心身状態の経過を追っています。スタッフも家事を行う場面等で「一緒にやってみましょう」と声掛けし、有する力の把握・向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、ご本人様・ご家族様・ケアマネージャー、施設管理者の話し合いに基づき計画書を作成しています。また、担当医と管理者の間で健康面の課題の把握に努め、必要に応じてご家族様に報告・相談を行っています。毎月月末にご本人様からの聞き取りによるモニタリングを実施しています。	計画作成担当者は2名ともに介護支援専門員です。「生活チェック表」で出来ている、出来ていないを毎日確認のうえ、5表(モニタリング表)に反映させ、1ヶ月毎に評価をおこない、更新は半年毎とこまめな取組みを実現させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく生活チェック表を導入し、ケアプランに基づいた介護が行えているかを日々チェックしています。行えなかった場合には理由を記載しています。結果はモニタリングに反映し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のご意見を尊重したプランの作成、現場への落とし込みを行っており、それらが実行出来ているかミーティングで話し合っています。必要に応じた個別支援にも取り組んでいます。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在制限しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様との連絡を密に取り、適切な医療が受けられるように努めています。	在宅の頃のかかりつけ医を継続している人は2名です。他は24時間急変時対応のある協力医に変更しています。予め医師に情報提供書を提出、管理者が診療記録を赤、薬剤師対応を青と分かり易く分けています。家族には薬の変更をLINEで送信、情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおりません。 ケアで感じた気づきを、かかりつけ医に相談・報告が出来る環境になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族やかかりつけ医や先方の相談員との報連相を密にすることにより利用者様が適したタイミングで帰って来られるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入所時にお伝えしております。また、段階が進んだ状態となった場合、一歩踏み込んでご家族のご意向を聞かせていただいております。	契約時「看取りについての事前確認書」を通じて家族の意向を確認しており、大半の家族が「最期までここで～」と希望しています。食事が思うように摂れなくなった等段階に応じて家族とあらためて話し合いの場をもち、ここ1年で2名のお見送りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っておりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施するようにしています。運営推進会議において、日程をお知らせしています。	地域防災への参加及び事業所の訓練への地域参加はありませんが、年2回の法定訓練は毎年実施しており、火災と水害想定でおこなって主に移動方法を検証しています。本年は秋に総合避難訓練をおこなう予定です。	非常食は現在3日ほどですが、「量や種類は適切か」を改めて見直して一覧表にするとともに、試食や実際の被災ではどのように調理するのかをシミュレーションすることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けだけでなく、入浴時やトイレ利用時にもプライバシーの保護に努めています。	例えばレクリエーションでは、意欲溢れる人と仕方なくやる人に温度差があったり、リーダーシップを越えて仕切ろうとするなど様々な利用者がいるので、一人ひとりの意向を尊重するなかにも仲間意識を保てるよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方は、入居者様の判断に任せています。ただ、選択肢は提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた職員配置なので、その中で利用者本位となるようなタイムスケジュールにしており、季節に合った活動を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様を巻き込んで対応しています。ご家族が希望された場合職員が用意します。選択可能な方には今日着る服を選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗い物は常にお願ひしています。調理については、状況を見つつお手伝いしてもらっております。	栄養士の立てた献立表をもとに、利用者の心身状況に配慮して管理者がアレンジしてメニューを決め、買い物は職員が(コロナ禍前は利用者も)おこない、手作り調理で提供されています。郷土料理の「たません」をおやつで食したり、行事食も盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食以外に間食される方への対応や、水筒の準備など、個別に対応しています。食介が必要な方にも全食介とならないよう残存能力の活用が出来るよう配慮しております。また、水分チェック、カロリーコントロールには特に気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただいております。訪問歯科も1週間に1回 来てもらっているもので、口腔内は清潔に保たれていると思われまます。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力紙パンツは使用しない方法を模索し、ケアで対応するように努めています。また使用している方に関しては汚染回数や尿量や時間帯を鑑みて、パッドの種類、交換頻度を考えています。	平均介護度は2、24、自立排泄できるのは8名です。排泄チェック表で汚染回数や尿量、時間帯を鑑みて、パッドの種類、交換頻度を検討しています。そのためオムツで入居した人が、食欲もなく、歩くことも出来なかったのに1週間ほどで好転し、リハパンへと向上した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と並び、最優先項目として取り組んでいます。医師と相談し、無理なく自然排便が出来るように排泄コントロールしています。また、水分チェックを行い、摂取量の少ない方には好みの飲料を飲んでいただくなどの工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに提供しており、体調や行事予定などにより状況を見極めています。本人様の意向により提供出来ないときは時間を置いたり職員を変えたりして対応を試みます。	1日おきでの入浴は、午後の時間帯に4、5名ほどでゆっくり過ごせるよう配慮しており、気分が乗って「シャボン玉」を歌う人もいます。お湯は2名入ったら入れ替えをおこない、冷えや水虫などの症状のある人には足浴をプラスし、しょうぶ湯、ゆず湯の時節風呂の日も設けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ハード面では、改善できない点が多いですが、巡視の時間を軸として、その方の睡眠を阻害しないように努めております。また、ご自身の意思で眠たい時に寝られる環境になっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノート、服薬一覧表を活用し、全ての職員が、服薬の変更を事前に知ることが出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を本人様、家族様から聞き取り、本人様の意欲に応じて環境整備しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で現在制限しております。	散歩や買い物、喫茶店探訪など、これまでできていたことができず、代替としてお寿司のテイクアウトや「365歩のマーチ」にのせた歩行体操、レクリエーションを楽しむ毎日、「少しでも」との想いからレクリエーションメニューが増えていきます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持してもらっていません。任意の額をお小遣いという形でお預かりし、本人様の欲しいもの、必要なものを購入出来るようになっていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のご意向に沿っており、電話はほとんどの入居者様が活用されておられません。一部の入居者様が、電話や絵手紙などをやり取りされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはグループホームにとっては特にメインとなる場所なので常に気づかいを行っております。室内の装飾も季節を感じられるようにしております。	掃除はいつも通りとし、換気は午前2回、午後1回と決め、感染症対策としています。また、前回の外部評価で課題となっていた「細かい箇所の清掃を月1回おこなう」「備品にはカバーをかける」などが改善向上されていて、真摯な姿勢が受けとめられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちらこちらにソファを配置しており、過ごす場所を特定しておりません。気ままに過ごせるよう、施設内の移動を制限しません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で用意した物は、極力少なくし、ご本人様の使いなれた物がそのまま使えるような環境です。	スナップ写真を沢山額に収めて家族写真を飾っていたりと、小物は其々の特徴がみられますが、総じて特別な物を持ち込んだ居室はなく、すっきりとしています。顔を見やすくする、起き上がりやすくすることを考慮してベットの位置を変えた例もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を最優先した構造の中で一人一人の状態に合わせた環境づくりや対応を常に心掛けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500316		
法人名	(株)イズミ		
事業所名	グループホーム笑顔の泉(Ｂユニット)		
所在地	愛知県春日井市下条町2丁目1-9		
自己評価作成日	令和2年8月8日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2392500316-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&amp;jiyosyoCd=2392500316-00&amp;serviceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事・・・行事食をメインとした季節ごとの施設内行事を提供しています。  
 食事・・・毎日三食手作りで提供しています。  
 職員・・・人員を多めに配置することで手厚いケアを提供しています。  
 利用者様もスタッフも毎日笑顔で楽しく生活出来るような管理運営を心掛けています。  
 また、利用者様の生活の質やADL低下予防のため外出レクや毎日の散歩に力をいれておりますが、現在コロナウイルスの影響により一時期にそれらは制限しております。  
 代替策として室内散歩と室内レクを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「日々、体を動かしていくことが大事」との共通命題を持つ職員が毎日生活チェック表をつけ、達成のための情報整理と共有を欠かしません。命題の一環には家庭菜園があり、キュウリは347本も収穫、植えつけや水やりを楽しめたうえに、食卓にも並んで大成功を収めています。また利用者の中には「一日何本採れたか」記録をとり、収支決算まで管理者に報告して下さる人もいて、今後の植栽計画をメモする姿に職員も他の利用者も微笑ましく見守っています。また介護支援専門員2名が計画作成担当者との潤沢な配置に恵まれ、独自の書面作成を以て「家族にも分かり易い介護計画書づくり」が励行されていることも取組みを支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に3か所掲示しており、新人職員にも事業所理念を伝達しています。 理念に基づいた教育を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で制限しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の困っている人を受け入れられるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で現在は書面でのやり取りとしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの対策について相談させていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市町村の指導もあり、玄関の施錠を行っています。2か月に一回身体拘束適正化委員会を開催しております。 施錠以外の身体拘束は現状有りません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のリーダー会議で虐待に繋がりがかねない行為やニュースをピックアップし具体例を出しどのようにすればよかったかなどを書面として作成、配布しています。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であればいつでも支援できるよう学んだり話し合ったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に懇切丁寧に説明しております。また、常日頃から不明な点は聞いていただけるような態度を心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、対応しております。本部へも届出、書面に残り改善をします。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から個別の面談を行っております。職員の本音が聞き出せるような対応を心掛けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの状態、ニーズを把握し向上心を持って働ける職場作りに励んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画による研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で制限しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは、先方への配慮で現在管理者一人で赴きます。入居当日に本人様、ご家族、管理者、ケアマネで話し合います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様が安心して暮らせるよう、本人様及びご家族のご意向を第一に個々のケアを行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様の状況がグループホーム入居に向いているかどうか判断し、正直にお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長らく利用して下さっている利用者様や長く続けてくれている職員が多く、信頼関係が構築されていると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や負担を軽減できるよう、可能な限りご要望を叶えられるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で現在面会は制限しております。代替策としてライン面会や写真の送付を実施しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を席の配置に反映し、共に助け合えるような環境づくりに努めています。常日頃から利用者様同士の関係が良好となるようお声がけを行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから関係を断ち切ろうとはしません。退去されたご家族様の相談を受けることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議で本人様及び家族様の意向の聞き取りを行っています。また、日常の関わりからもご本人様の意向の把握に努めております。認知症等により困難な場合には家族様にお話を伺い、本人本位の視点に立てよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に今までの暮らしぶりの聞き取りを行っています。また、日常会話の中でも差し障りない範囲で聞き取りを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに基づく生活チェック表を使用し、心身状態の経過を追っています。スタッフも家事を行う場面等で「一緒にやってみましょう」と声掛けし、有する力の把握・向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、ご本人様と家族様・ケアマネージャー、施設管理者の話し合いに基づき計画書を作成しています。また、担当医と管理者の間で健康面の課題の把握に努め、必要に応じてご家族様に報告・相談を行っています。毎月月末にご本人様からの聞き取りによるモニタリングを実施して		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく生活チェック表を導入し、ケアプランに基づいた介護が行えているかを日々チェックしています。行えなかった場合には理由を記載しています。結果はモニタリングに反映し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のご意見を尊重したプランの作成、現場への落とし込みを行っており、それらが実行出来ているかミーティングで話し合っています。必要に応じた個別支援にも取り組んでいます。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在制限しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様との連絡を密に取り、適切な医療が受けられるように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおりません。 ケアで感じた気づきを、かかりつけ医に相談・報告が出来る環境になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族やかかりつけ医や先方の相談員との報連相を密にすることにより利用者様が適したタイミングで帰って来られるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入所時にお伝えしております。また、段階が進んだ状態となった場合、一歩踏み込んでご家族のご意向を聞かせていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っておりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施するようにしています。運営推進会議において、日程をお知らせしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けだけでなく、入浴時やトイレ利用時にもプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方は、入居者様の判断に任せています。ただ、選択肢は提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた職員配置なので、その中で利用者本位となるようなタイムスケジュールにしており、季節に合った活動を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様を巻き込んで対応しています。ご家族が希望された場合職員が用意します。選択可能な方には今日着る服を選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗い物は常にお願ひしています。調理については、状況を見つつお手伝いしてもらっております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食以外に間食される方への対応や、水筒の準備など、個別に対応しています。食介が必要な方にも全食介とならないよう残存能力の活用が出来るよう配慮しております。また、水分チェック、カロリーコントロールには特に気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただいております。訪問歯科も1週間に1回 来てもらっているので、口腔内は清潔に保たれていると思われます。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力紙パンツは使用しない方法を模索し、ケアで対応するように努めています。また使用している方に関しては汚染回数や尿量や時間帯を鑑みて、パッドの種類、交換頻度を考えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と並ひ、最優先項目として取り組んでいます。医師と相談し、無理なく自然排便が出来るように排泄コントロールしています。また、水分チェックを行い、摂取量の少ない方には好みの飲料を飲んでいただくなどの工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに提供しており、体調や行事予定などにより状況を見極めています。本人様の意向により提供出来ないときは時間を置いたり職員を変えたりして対応を試みます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ハード面では、改善できない点が多いですが、巡視の時間を軸として、その方の睡眠を阻害しないように努めております。また、ご自身の意思で眠たい時に寝られる環境になっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノート、服薬一覧表を活用し、全ての職員が、服薬の変更を事前に知ることが出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を本人様、家族様から聞き取り、本人様の意欲に応じて環境整備しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で現在制限しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持してもらっていません。任意の額をお小遣いという形でお預かりし、本人様の欲しいもの、必要なものを購入出来るようになっていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のご意向に沿っており、電話はほとんどの入居者様が活用されておりません。一部の入居者様が、電話や絵手紙などをやり取りされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはグループホームにとっては特にメインとなる場所なので常に気づかいを行っております。室内の装飾も季節を感じられるようにしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちらこちらにソファを配置しており、過ごす場所を特定しておりません。気ままに過ごせるよう、施設内の移動を制限しません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で用意した物は、極力少なくし、ご本人様の使いなれた物がそのまま使えるような環境です。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を最優先した構造の中で一人一人の状態に合わせた環境づくりや対応を常に心掛けています。		